

学校目標	徳育・知（智）育・体育の調和のとれた、人格の形成をめざす
目指す学校像	授業が充実し、生徒と生徒、生徒と教職員の間に信頼関係のある学校 チーム堅中として、クワトロゼロ（いじめ・不登校・校則違反・偏食）をめざす
目指す子供像	①心豊かな、美しい感性をもった生徒 ②意欲的に学習する生徒 ③たくましく、何事もやりぬく生徒
目指す教師像	人権意識を高め、生徒や保護者に寄り添い、現実を直視し情熱をもって職務を遂行する教師

項目	取組目標	取組指標	成果指標
各教科指導等	確かな学力を育てるための、分かりやすい授業を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ○授業時数・授業時間を確保する。 ○「書く」力の定着を図る。 ○漢検・英検・数検の受験を奨励し、資格取得に努める。 ○全国、墨田区学力向上への取組（理科） ○補習教室等の充実を図る。 ○指導教諭・互見授業週間を活用し O J T を実施する。 ○ I C T 機器、タブレット端末を活用し、分かる授業、できる授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1 分前始業で 5 0 分の授業時間を確保する。 ○「書く」達成率 8 0 % ○各検定 3 級以上取得者が 3 年生の 5 0 % 以上。 ○3 つの検定 3 級以上合格者 3 年生の 1 0 % 以上。 ○全学年、社会・理科において、全国平均に到達する。 ○放課後すみだ塾の参加者を毎回 1 0 名以上 ○校内互見授業週間の有効活用し、授業改善に努める。 ○定期考査等での正答率 1 0 % 以上を目標とする。
	特別な支援を必要とする子供に対しての、組織的な支援等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○校内委員会による個別指導計画を対象となる生徒全員分作成し、実施・評価・改善を実施する。 ○支援が必要な生徒についての情報共有を進めるため、ICT 閲覧板を活用する。タブレット端末を活用しロイロノート等のアプリで学習支援実施する。 ○特別支援教育（特別支援教室）についての研修会を行い、教職員・保護者への理解を浸透させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内委員会の週 1 回の実施 ○生徒に関するデータベースを作成し、共有する。 ○校内閲覧板をその日のうちに全員が確認。また、支援を必要とする生徒の学びの保証に努める。 ○全教職員が特別支援教育に関する研修会を受講。
	社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年でキャリア教育の指導計画の作成・実施・評価・改善を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○職業体験については、堅中ハローワークを活用して、求人票や履歴書の作成など、実際の就職活動に準じた指導を行う。 ○社会人講師の講話を各学年 3 回以上。
	教員の指導力・授業力の向上のための、組織的な取組等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度の区研究協力校として研究を引き継ぎ、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点について「指導と評価の一体化」を実施する。 ○年 2 回の校内互見週間において、ベテラン、中堅、若手の授業観察と O J T を実施する。 ○毎授業で I C T 機器やタブレット端末を活用しデジタル技術を向上させ、主体的に学習に取り組ませている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本年度は、「知識・技能」「思考・判断・表現」のワークシート・ルーブリックの作成の精度を高める。 ○年 2 回の校内互見週間に、教員同士の授業参観を通して、O J T を実施し、互いの授業改善及び若手教員の人材育成に努める。また、特別支援教育の理解を深める。

様式 2

生活指導等	いじめ、不登校等の予防や解決に向けた組織的な取組等を行う。	○いじめアンケートを年5回実施し、生徒の意識を高めるとともに、保護者アンケートも年2回実施し早期解決に努める。	○アンケート結果から、必要な聞き取りや指導を行い、聞き取り後問題の解消 100% としていく。
	基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組む。	○生徒の意識を高めるために、朝礼の校長講話をもとに、道徳心を育む。 ○クワトロゼロをめざすために、生徒会組織を有効に活用する。 ○問題行動が発生した場合、担任や生活指導部主任せにせず、全教員で解決する。	○校長講話を通して、生徒の活動を褒め、意欲を引き出していく。さらに、思いやりの心を育てていく。 ○生活アンケートを生徒が実施・集計・分析し、全校に働きかける。 ○給食の残菜を 2% 以下にする。 ○ICT 回覧板を活用し、問題行動の周知徹底を図り、それぞれの役割が果たせるようにする。
	危機回避能力の育成や子供の安全を確保するための取組等を行う。	○計画通りに、毎月の安全指導、避難訓練において想定を変えて実施する。 ○特別な教科「道徳」の別葉を作成し(主体的学び、対話的学び、深い学び)各教科への横断的取組継続 ○生活アンケートを年度当初に実施し、フィルタリングの設定を徹底する。	○避難方法の確認だけでなく、毎回違う場面、時間帯を想定した訓練を行う。 ○各教科の年間指導計画において、特別な教科「道徳」の関連項目の組み込み、別葉作成、活用、実践の継続をする。 ○SNSによるトラブルの根絶に向け、生徒会を中心に生徒が自らルールを決め活用する。
学校の管理運営	経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行う。	○学年担任制の充実を図る。 ○副主任制度による組織的な学校運営に努める。	○全員の教師が全校生徒の名前と顔が一致する。個別指導の充実を図る。 ○副主任による主任補佐の役割を通して、分掌・学年を組織的な運営にしていく。
	子供の実態に合わせた教育目標設定及び学校評価等を適切に行う。	○家庭学習帳の充実させるために全教員で取組 ○生徒の生活意識調査年5回、保護者の生活意識調査を前後期に実施し、迅速な対応をする。また保護者・地域による学校評価アンケート実施する。	○全校で提出率 80% 以上。 ○年3回の学校運営連絡協議会を実施し、学校教育方針を説明し、学校における教育活動の進捗状況を説明する。また、学校評価アンケートによる改善を図り、生徒の実態に対応する。
	適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整える。	○学力向上に向けて、国・区のそれぞれの学力調査に関する取組の強化を図る。	○各調査前に5時間程度、対策講座を実施する。達成率前年比 3~5% 以上にする。
家庭・地域連携	教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える取組等を行う。	○学校便り・学年便りの発行、HPの更新を定期的に行う。また、ペーパーレス化に向けて、保護者へ学校連絡・情報共有サービス「コクー」による配信を実施していく。地域・町会には、要望に応じて従来どおり、紙面による学校便りを配布 ○生徒一人一台のタブレット端末の有効活用に努める。	○毎月の学校便り・毎週の学年便りの発行、デジタルデータで配信する。HPの更新を随時行う。 ○本校の教育活動に向けた広報活動の充実を図る。 ○生徒一人一台のタブレット端末の活用による授業、家庭学習での有効活用を通して、学力向上を図る。
	保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行う。	○学校支援地域協会の、青少年育成委員会、町会等との連携を強化する。	○3年生対象に、協会及び町会長等の外部人材による面接指導を実施。面接力の向上を図る。

※ 表については、必要に応じて2ページ以上にわたるよう加工する。